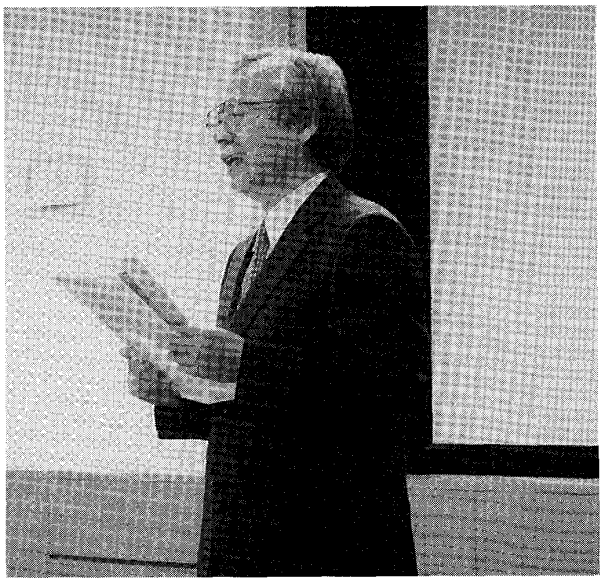
開 会 の 挨 拶

札幌学院大学社会情報学部長　秋 山 雅 彦



秋 山 雅 彦　学部長

おはようございます．学部長を務めております秋山です，よろしくお願いいたします．

本日は，お忙しい中を3人の先生方にお見えいただいているわけでございます．ご紹介いたしますと，原純輔先生．トップバッターでお話いただきます．それから，佐藤健二先生は，最後の講演をいただきます．もう一方，佐藤博樹先生ですが，昨日は遅くまで大学でのお仕事があって，お昼ごろにならないとこちらにお見えになれないとのことでございます．3人の先生方には，大変お忙しいところをお出でいただきまして，誠にありがたく，御礼申し上げます．

この「社会と情報に関するシンポジウム」の第1回目が，1991年8月中旬にスタートしました．そのときの記録を見ますと，3人の先生方がお話なさっています．中京大学の福村晃夫先生，東京大学の吉田民人先生，それから今日お見えになっておられます田中一先生．田中先生は当時学部長で，そのときの企画の実行委員長が，今本学の学長をしております狩野陽先生でした．

その内容を，紀要『社会情報』創刊号で調べてみました．私たちの学部は社会情報学と申しますけれども，社会情報学は科学として形成途上の学問領域である，その基本問題について討論するとありました．11年前でございます．

昨年は学部創設が10周年ということで，少し規模の大きなシンポジウムを行いました．今年は11年目ということになるわけで，その間をずっと振り返ってみますと，1996年に社会情報学会が創設され，学会の雑誌が創刊されたのが97年になっております．今年はこの学会の6回目の大会が，10月に本学で開催するという予定になっております．それから，ついこの間，田中一先生の編集による『社会情報学』という著作が，立派な本となって出版になりました．この10年間，社会情報学に関しては非常に大きな発展があったというふうに見ております．

本日のテーマは，「調査情報の生成・蓄積・活用」となっております．91年の本学部創設の年に始まった「社会と情報に関するシンポジウム」の第11回目に相当します．本学部の活動として「社会意識調査データベース」があります．私どもでは略してSORDというふうに申しております．今日の最初に新國三千代さんがその話題を提供いたします．これは，学部の看板事業の1つとして位置づけてまいりました．今年は11年目ということになりますので，その総括から現在抱えている問題点，今後の展望，そういったものを議論する時期にきています．

そのような背景にたって今回のシンポジウムでは，3人の先生方をお招きして，SORD事業の形態，在り方について議論することにしております．2日間にわたって，先生方のご講演を中心にすえながら，活発な議論をおこなって行きたいと考えております．

本学部には，月例の研究会がございまして，今月の初めにプレシンポを開き，本日にそなえての勉強をしております．それの成果がどれくらい出るかわかりませんけれども，よろしくお願いしたいと思っております．

2日間にわたりますが，実りある成果が得られるよう，是非討論を深めていきたいと思っております．先生方，どうぞよろしくお願いいたします．

ありがとうございました．